



4月の採用薬品（院外処方専用薬品）

レキップCR錠2mg 徐放性ドパミンD2受容体系作動薬 グラクソ・スミスクライン



【効】パーキンソン病
【用】通常、成人にはロピニロールとして1日1回2mgから始め、2週目に4mg/日とする。以後経過観察しながら、必要に応じ、2mg/日ずつ1週間以上の間隔で増量する。いずれの投与量の場合も1日1回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、ロピニロールとして1日量16mgを超えないこととする。
【副】添付文書参照

アナフラニール錠2.5mg うつ病・うつ状態・遺尿症・情動脱力発作治療剤 アルフレッサファーマ



【効】①精神科領域におけるうつ病・うつ状態 ②遺尿症 ③ナルコレプシーに伴う情動脱力発作
【用】①通常、成人にはクロミプラミン塩酸塩として1日50～100mgを1～3回に分割経口投与する。ただし、年齢、症状により適宜増減するが、1日最高投与量は225mgまでとする。
②通常、6歳未満の幼児にはクロミプラミン塩酸塩として1日10～25mgを、また6歳以上の小児には1日20～50mgを1～2回に分割経口投与する。ただし、年齢、症状により適宜増減する。
③通常、成人にはクロミプラミン塩酸塩として1日10～75mgを1～3回に分割経口投与する。
【副】添付文書参照

ラツェグ錠40mg 抗精神病剤／双極性障害のうつ症状治療剤 大日本住友製薬



【効】①統合失調症②双極性障害におけるうつ症状の改善
【用】①通常、成人にはラシドン塩酸塩として40mgを1日1回食後経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日量は80mgを超えないこと。
②通常、成人にはラシドン塩酸塩として20～60mgを1日1回食後経口投与する。なお、開始用量は20mg、増量幅は1日量として20mgとし、年齢、症状により適宜増減するが、1日量は60mgを超えないこと。
【副】添付文書参照

ロケルマ懸濁用散分包5g 高カリウム血症改善剤 アストラゼネカ



【効】高カリウム血症
【用】通常、成人には、開始用量として1回10gを水で懸濁して1日3回、2日間経口投与する。なお、血清カリウム値や患者の状態に応じて、最長3日間まで経口投与できる。以後は、1回5gを水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、血清カリウム値や患者の状態に応じて適宜増減するが、最高用量は1日1回15gまでとする。
【副】添付文書参照

ピモベンダン錠2.5mg「TE」 心不全治療薬 トーアエイヨー



【効】①利尿剤等を投与しても十分な心機能改善が得られない急性心不全②ジギタリス製剤、利尿剤等の基礎治療剤を投与しても十分な効果が得られない慢性心不全（軽症～中等症）
【用】①成人にはピモベンダンとして1回2.5mgを経口投与する。なお、患者の病態に応じ、1日2回経口投与することができる。また、必要に応じて、ジギタリス製剤等と併用する。
②通常、成人にはピモベンダンとして1回2.5mgを1日2回食後に経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、ジギタリス製剤、利尿剤等と併用する。
【副】添付文書参照

4月の採用区分変更薬品

イグザレルト錠15mg	患者限定	→	採用（注文薬）
ロサルヒド配合錠LD	院内採用	→	院外限定

